

ワールドカフェ

～対話+創造=ちょっといい未来～

報告書



獨協大学外国語学部工藤和宏ゼミ
2012年度プロジェクト報告書

2013年12月6日

目次

ごあいさつ.....	1
第1章 ワールドカフェ開催趣旨.....	3
第2章 ワールドカフェとは.....	5
第3章 ワールドカフェの準備と運営.....	9
第4章 21 ワールドカフェの効果.....	21
第5章 ワールドカフェ後の「よりよい社会」に関する意識の変化.....	31
第6章 ワールドカフェ後の参加者間のつながり.....	38
付録1. 事前アンケート.....	46
付録2. 直後アンケート.....	47
付録3 追跡アンケート.....	49
付録4. インタビュー質問表.....	51
付録5. ワールドカフェ運営資料.....	52
付録6. プロジェクトメンバー感想.....	60

ごあいさつ

2012年11月10日(土)、私たちは「ワールドカフェ～対話+創造=ちょっといい未来～」を獨協大学6棟101教室にて開催した。ワールドカフェとは、「知恵や知識は機能的な会議室のような空間で生まれるのではなく、人々が自由に会話を行い、自由にネットワークを築く事が出来る『カフェ』のような空間でこそ創発される」¹という考えに基づいた対話の手法である。人々の暮らしや価値観、社会問題の多様化という認識のもと、よりよい社会をつくるためには社会を構成するさまざまな立場の人の対話が必要であると考え、企業人・NPO関係者・大学生を招いてワールドカフェを開催した。

イベント当日は、計74人の10代から60代という幅広い年齢の方々に参加して頂いた。参加者の方々には「あなたにとっての理想の社会とは?」、「どうしたら理想の社会を実現できるでしょうか。」という二つの問いについて話し合ってもらい、活発な意見交換が行なわれイベントは盛況に終わった。

本報告書は、本イベントの内容とその効果について、①事前アンケート、②直後アンケート、③追跡アンケート、④追跡インタビューという4つの方法を組み合わせて調査した結果を記したものである。(アンケートおよびインタビュー質問は付録1～4を参照。)各章の内容と執筆者は以下の通りである²。

第1章 ワールドカフェ開催趣旨(相田剛志・加藤夢子・古屋園)

私たちがなぜワールドカフェを開催しようと考えたのか。本イベント開催に至る動機やその背景、企業人・NPO関係者・大学生を招待した理由について説明している。

第2章 ワールドカフェとは(鈴木貴子・小林祐未・樋田由惟)

ワールドカフェという対話手法の標準的なプロセス、それがもたらす、立場を超えた自由な会話や価値観や考えの共有の効果について述べる。また、私たちが参考にした先行事例も紹介する。

第3章 ワールドカフェの準備と運営(新井可奈・岩垂絢子・古屋園)

ワールドカフェを企画・運営するに当たっての組織体制、それぞれの部署がイベント開催までに実際に行なった活動、当日の役割や参加者の属性、カフェ開催後の当日の反省点につ

¹ ワールドカフェ・ネット「ワールド・カフェとは?」(<http://world-cafe.net/about-wc.html>)

² ワールドカフェ運営のアドバイスおよび本報告書の誤字脱字の修正および読みやすさの観点からの加筆・修正は、指導教員の工藤和宏先生にお願いした。

いて述べる。私たちが企業人・NPO 関係者・大学生の協働を促す為に空間設計をどのように行なったのかを記述する。

第4章 ワールドカフェの効果（北川夏実・堀口理恵）

ワールドカフェ直後に行なったアンケート（直後アンケート）に基づき、私たちのワールドカフェが参加者にどのような内的な変化・気づきをもたらしたのかについて述べる。より良い社会を形成していく上での強い効果は見られなかったが、異業種交流や異世代間交流など普段知り合う事のない人々の交流を促進する上での効果は見られた。

第5章 ワールドカフェ後の「よりよい社会」に関する意識の変化（相田剛志・加藤夢子・佐々木歩・長塚勝）

ワールドカフェ開催の事前アンケート、カフェの最後に使用したポストイット、カフェ直後に行なったアンケートを基に、「よりよい社会」に関するワールドカフェ参加者の意識変化に焦点を当てた。データ分析の結果、参加者の意識に大きな変化は見られなかった。参加者の多くが自身の専門性を背景に強い主張を対話に持ち込んだためではないかと考えられる。

第6章 ワールドカフェ後の参加者間のつながり（伊藤優美・玉木早織・橋本歩美）

イベント開催直後のアンケートとその1～2ヶ月後に回収した追跡アンケートを基に、私たちのワールドカフェが企業人・NPO 関係者・学生三者間の協働を促進したかどうかについて述べる。調査の結果、私たちが思い描いた、企業人・NPO 関係者・学生が共に活動をするというつながりは1事例しか確認できなかったが、参加者からはワールドカフェが「きっかけ」や「つながり」づくりに一定の効果を期待できるという声を聞くことができた。

巻末には運営メンバーの感想文やワールドカフェ開催に用いた資料も収めてある。

「ワールドカフェ～対話+想像=ちょっといい未来～」の開催ならびに本報告書の作成は、たくさんの方々の協力を得て実現した。参加者ならびに協力いただいた方々に心から感謝申し上げます。

2013年12月6日

獨協大学外国語学部工藤和宏ゼミ第9期一同

第1章

ワールドカフェ開催趣旨

相田剛志・加藤夢子・古屋園

1-1. 「ワールドカフェ」への注目

日本で暮らす人々の生活スタイルや価値観が多様化していると言われるようになって久しい。日本は住みやすい社会であると感じる人がいる一方、住みにくい社会になってきていると感じる人もいる。生活スタイルや価値観の多様化は社会問題の多様化をもたらしているといえよう。

社会問題は一つの組織や個人では解決出来ない。問題解決の為に、企業・NPO・大学・行政といった社会を変える力を持つ組織や個人の協力が必要である。また、社会問題を解決するためには問題解決のために行動する人々の出会いの場、情報交換の場、気づきの場を設けることが重要である。

そこで、私たちは、さまざまな背景をもつ人が対話し関係作りをする場としての「ワールドカフェ」に注目した。

1-2. 「ワールドカフェ～対話+創造=ちょっといい未来～」開催趣旨

私たちは、社会問題の多様化の解決への糸口として、組織間、個人間、組織と個人をつなぐことが大切であると考えた。とくに、NPO 関係者、企業人、大学生の対話の必要性に注目した。

社会問題を解決する担い手として最初に注目したのは NPO である。NPO には 17 の領域があり、それぞれの領域において専門性の高い活動をしている（表 1 参照）。しかし、その多くは活動資金が不足しているという³。

では、企業の場合はどうか。近年では、自社ホームページに社会的責任（Corporate Social Responsibility: CSR）活動を掲示し、その活動をアピールしている企業が多い⁴。しかし、単体で活動を実行、維持出来る企業はごく一部である。たとえば、多くの企業は二酸化炭素排出削減等の環境保全の活動をしているが、昨今の経済状況から鑑みて、企業が CSR 活動のために必要となる資金を捻出する事は難しい。

それでは、個人の視点から社会問題を見るとどうなるだろうか。従来、個人の活動は規模

³ 長野県企画県民協働・NPO 課『平成 23 年度 NPO に関する実態調査 調査結果報告書』

(<http://www.pref.nagano.lg.jp/kikaku/npo/atarasi-jigyoku/23jittaitvousa-zenbun.pdf>)

⁴ 『トヨタ CSR 活動報告』

(<http://www.toyota.co.jp/jpn/sustainability/csr/stakeholders/society/contribution2.html#domestic>)

が限られ社会への影響力は小さいと考えられてきた。しかし、現在では、Twitter や Facebook 等の SNS を用いて個人の力を集めて活動をしている人達がいる⁵。東日本大震災における復興支援をみれば明らかであるが、問題解決に果たす個人の力はとても大きい。

そこで、私たちは、個人の代表として未来の社会を担う大学生に注目した。学生のうちから、様々な組織や個人とつながりを作ることによって、学生の見識の幅が広がり、未来に良い効果をもたらすのではないかと考えた。

私たちは、社会の問題解決や変革の力を担うと考えられる企業人・NPO 関係者・学生が「よりよい社会」について理想を語り、その実現の為にできることは何かを対話を通して考える場所が必要だと考えた。三者間の「つながり」を構築することが「よりよい社会」の実現につながるのではないかと考えた。私たちのワールドカフェのタイトル「対話+創造=ちょっといい未来」には、このような意図が込められている。

表 1 NPO の活動領域

	NPO の活動領域
1	保険・医療または福祉の推進を図る活動
2	社会教育の推進を図る活動
3	まちづくりの推進を図る活動
4	学術、文化、芸術またはスポーツの振興を図る活動
5	環境の保全を図る活動
6	災害救助活動
7	地域安全活動
8	人権の養護又は平和の推進を図る活動
9	国際協力の活動
10	男女共同参画社会の形成の促進を図る活動
11	子供の健全育成を図る活動
12	情報化社会の発展を図る活動
13	科学技術の振興を図る活動
14	経済活動の活性化を図る活動
15	職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動
16	消費者の保護を図る活動
17	上記 16 項目の活動に関する連絡、助言又は支援をする活動又は援助の活動

⁵ グリーンバードホームページ (<http://www.greenbird.jp>)

第2章 ワールドカフェとは

鈴木貴子・小林祐未・樋田由惟

2-1. ワールドカフェとは

「知識や知恵は、機能的な会議室の中で生まれるのではなく、人々がオープンに会話を行い、自由にネットワークを築くことのできる『カフェ』のような空間でこそ創発される⁶。」ワールドカフェは、この前提に基づいて開発された対話手法である。装飾・和やかな音楽・香りなどで演出された、カフェのような空間でリラックスしながら会話をすることによって、人々はオープンに本音を語ることができ、初めて会った人とも気軽に会話ができるという。

ワールドカフェは、従来の会議手法では成し得る事が難しかった、「各個人が主体となり、対等な立場で行う話し合い」を可能にする。1テーブル4～5人単位の小グループでメンバーを変えながらテーマについて話し合いを続け、これを各20分、3～4ラウンド行うのが一般的な形である。会話をコントロールする者がおらず、各個人の考えが尊重され、些細な事でも発言しやすいことから、参加者の主体性が発揮される。

2-2. ワールドカフェの標準的なプロセス

ワールドカフェの標準的なプロセスは以下のとおりである。

～第1ラウンド～

4～5人ずつのグループに分かれ、テーブルの上の模造紙に自由にアイデアやメモを書き込みながら会話をする。

～第2ラウンド～

各テーブルにホストを1人残り他の参加者は「旅人」となって、他のテーブルに移動する。移動先のテーブルでは、自己紹介を行ったあと、テーブル・ホスト（テーブルに残った人）が第1ラウンドでどのような会話が行われていたのかを旅人に説明し、旅人は自分がいたテーブルでの話し合いの内容を他の旅人にシェアする。

～第3ラウンド～

旅人が再び元のテーブルに戻り、旅先で得たアイデアを持ち帰ってメンバーとの話し合いを続ける。

⁶ ワールドカフェ・ネット「ワールド・カフェとは？」(<http://world-cafe.net/about-wc.html>)

～全体セッション～

参加者全員で全ラウンドを通して得た気づきやアイデアなどを共有する。

2-3. ワールドカフェの効果

ワールドカフェではカフェのようなくつろげる空間、リラックスした雰囲気 연출することが重要である⁷。ワールドカフェが行われるのは、会議室の中かもしれないし、大講堂かもしれない。しかし、そのような場でも主催者からのささやかな心配りでがらりとその表情を変える。そこでの「いつもと違う雰囲気」は緊張感を和らげ、話しやすさを生み出す。

4人1組で1テーブルを構成することが多いワールドカフェだが、その少人数制というのも参加者の発言を促すことに一役買っている。大勢の前で話すのは苦手という人でも、自分1人に対し相手が3人という数は丁度良いと言われている。また、人数が少ないからこそ1人1人の発言の機会が増え、さらに相手との距離が近い分、耳を傾けてもらいやすく、自分が思った事を率直に言える和やかな雰囲気が作られやすくなる。

各ラウンドでメンバーの入れ替えを行うことによって、参加者は他の参加者全員と対話したような感覚を味わう事ができる。実際はそうでなくても、様々なテーブルに移動し、そこで他のグループの新たな意見を吸収することや短い時間の中で濃い話をする事が多くの知識を共有した事と同様の効果をもたらすのである。その効果は、メンバーの入れ替えの回数が多ければ多い程拡大すると言われている。また、最後に全体共有として感想や話し合いを通して重要だと感じたことなどを自由に発言することで、共に話すことができなかった他の参加者の考えを全体で共有することができる。同様に、参加者個人が重要だと感じたことをポストイットに記入しまとめて掲示することで、他の参加者の考えを知ることができ、たとえ言葉を交わすことがなくても自分と同じような考えを持つ人を発見できる。

そして、忘れてはならないのは参加者の参加意識、及び、満足感である。参加者はそれぞれが違うバックグラウンドを持つ人々の集まりであり、自分の経験や知識、意見などを共有しフィードバックを得る事で対話に参加したという満足感を得る事ができる。この満足感自分の発言の機会が増える程その意識も高まり、楽しかったという気持ちを得ることが出来る。そして、この満足感は次にまた対話に参加しようというモチベーションにもつながる。ワールドカフェでは、参加者同士で共感し合い、刺激し合える新たなつながりを生むことが

⁷ ブラウン・J、アイザックス・D (香取一昭、川口大輔 訳) (2007) 『ワールド・カフェ——カフェ的会話が未来を創る』 ヒューマンバリュー (原著: Brown, J., & Isaacs, D. (2005). *The World Café: Shaping our futures through conversations that matter*. Berrett-Koehler)

できる。そこで親しみや信頼感を感じることで、心の中でつながりが芽生え、全体としての一体感を生み、納得し共に新たな事業に繋がる可能性がある。

2-4. ワールドカフェの先行事例

ここでは、ワールドカフェの一例として「イマジン・ヨコハマ」⁸を紹介したい。

「イマジン・ヨコハマ」とは横浜市で行われた、市民が一体となり、横浜への愛着心を高めることや横浜の魅力の対外発信力を強化することを目的としたプロジェクトである。そのプロジェクトの一環として、ボランティアメンバーによるワールドカフェが開催され、未来の横浜について話し合った。2009年3月の開催時には約200人が参加し、共創・創発的な対話が行なわれた。参加者への「『一個人』としての率直な意見を話してください」「ここを傾けて、人の話をしっかり聴いてください」「ここは皆、対等です」「体験から、お互いから、楽しんで触発しあってください」「積極的に参加してください。でも、無理は禁物」などのルールにより、約200人の積極的な意見が飛び交った。

「ヨコハマはなぜ私たちを魅きつけるのでしょうか？」の問いには、各テーブルで「歴史ある文化」「新しいもの」「憧れのようなものがある」「自然体」「異国情緒」など、さまざまなイメージが挙げられた。ヨコハマの未来を問う質問に対しても「変わらずに残したいものもある」「多様性と共存できる街であってほしい」など、たくさんの意見が交わされた。その他、下記のような感想が見られた。

- ・ 「私は浜っ子ですが、今日衝撃的だったことは、『横浜はこのままではだめになるな』ということがよくわかったことでした。この街が輝き続けるようになんとかしたいなと思いました。」
- ・ 「印象的だったのは、みなさんが『横浜』というテーマの下に集まって、情熱をもって熱く語られていたことです。簡単にはまとめられないと思うので、われわれも含めて、イマジン・ヨコハマ事務局の役割は大きいですね。」
- ・ 「今日はいろいろな世代と話せて良かったです！ 継続していけば、そこから絶対何かが生まれると感じました。」

このワールドカフェは「イマジン・ヨコハマ」プロジェクトのボランティアメンバーが中心となって開催されたものであるが、各個人のテーマに対する思いや考えを共有しあい共に進んで行こうという前向きな雰囲気にも包まれていることがわかる。同じ問題を共有し、様々な世代・背景を持つ人々が1つの場に集い話し合うことで新たな問題発見やその解決方法を

⁸ イマジン・ヨコハマ「ワールドカフェ」
(<http://www.city.yokohama.lg.jp/seisaku/seisaku/brand/executive-summary03-worldcafe.html>)

見つけ、個人の中での新たな気づきや価値観を生み出した。ワールドカフェが参加者の一体感を生み、これからの未来に向かって共に前進していくエネルギーをもたらした事例だといえよう。

2-5. 私たちがワールドカフェに期待すること

私たちは、社会問題が多様化した現在、組織間・個人間・組織と個人のつながりを作るためには草の根レベルでも、このワールドカフェのような対話の場を設け、改めて個人が理想とする社会について考えることで、現在の社会における問題を見つめ直し、どうしたらよりよい社会にできるのか考えることが大切なのではないかと考えた。ワールドカフェによってテーマについて充実した話し合いができ、その場にいる参加者がよりよい社会に向かっているという、場の一体感を味わい自発的な行動が生まれるのではないかと考えた。また、一人ひとりが主体となり理想の社会に対するアイデアを交換し合い、他の参加者の価値観に触れることで新たな気づきが生まれたり、考え方に変化が起こるのではないかと考えた。その中で自分と考えや方向性の似た人々が出会い、共感しあうことで新たな事業に繋がっていくかもしれない。私たちは、そのようなつながりがよりよい社会づくりへの第一歩であると確信している。このワールドカフェが人と人が出会うきっかけとなることを期待したい。

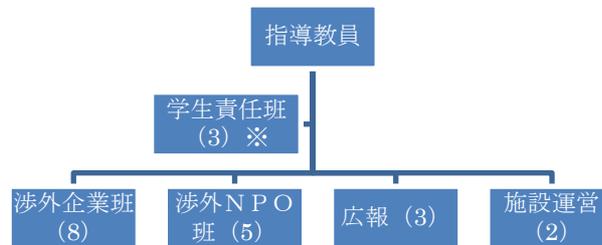
第3章 ワールドカフェの準備と運営

新井可奈・岩垂絢子・古屋園

3-1. 組織体制と役割

今回のワールドカフェでは、以下の通りに役割を分担して運営した。

- (1) 渉外（企業班と NPO 班に分割）・・・外部機関（NPO 関係者、企業人等）の交渉と対応
- (2) 広報・・・学生交渉、メディア交渉、協賛グッズ作成
- (3) 施設運営・・・会場の手配、設営および運営、協賛金集め



※学生責任班は、4つの組織の一員としての役割とワールドカフェ運営全体のコーディネーションを行った。

3-2. 当日までの各部署の活動

ここでは、ワールドカフェ当日までの各部署の活動について報告する。

3-2-a. 渉外部 企業班

- ① 交渉のための準備（企業リストの製作・渉外用メールアカウントの製作）
- ② 企業への交渉（メール・電話・twitter・Facebook等）
- ③ 参加決定者の対応（アンケート・当日の注意事項の送付）

① 交渉のための準備

- ・企業リストの製作

私たちは企業に属する参加者を集めるにあたり、まず獨協大学周辺の開催を見込み、大学周辺の東京・埼玉・千葉に限定した企業リストの製作を行った。この企業リストは、主に東証1部上場企業の中でもCSR活動を行なっている企業を抽出したものである。

- ・渉外用メールアカウントの製作

渉外活動を行う上で、メールの交渉内容を共有するため、また各自の進行具合を確認し合

うためにも、共有のメールアドレスを製作した。

② 企業への交渉

当初は上記の企業リストを基に、電話交渉を中心に交渉を進める予定であった。しかし、予想以上に企業数は膨大でリストの製作に時間がかかり過ぎたこともあり、電話交渉が思うように進まなかった。その結果、メールや SNS を中心に交渉を進めるという方法に変更した。以下、時系列に沿って交渉手段を紹介する。

・メール（2012年8月中旬～）

製作した企業リスト、また企業のホームページの問い合わせフォームを利用し、直接メールで参加交渉を行った。電話交渉からメール交渉へと移行したことで、当初は企業班全員がメール交渉に従事していて、大変効率が悪かった。SNS の効果が現れてからは、グループ内で役割を決め、メール交渉担当として 2 人を割当てた。企画趣旨、当イベントに参加するメリットを挙げながら、企業リストを基に計約 100 以上の企業に交渉メールを送ったものの、成果はほぼゼロに近かった。

・Twitter・Facebook の活用（2012年9月初旬～）

今回のイベントの宣伝媒体として、SNS を活用した。簡単なイベント紹介と共に、ワールドカフェのホームページやゼミブログのリンクを掲載するなど工夫をした。多くの人に興味・親しみを持って頂けるように日々の活動を報告しながら、同時に企業に属する個人に SNS を通してダイレクトメールの機能を用いて交渉メッセージを送った。すると、SNS を通して興味を持って頂いた個人からの返信が殺到した。そして着々と参加決定者が集まり始めた。SNS メッセージの反応率が企業への直接メール交渉よりも、圧倒的に増え、企業班 4 人が SNS 担当に従事することになった。

・電話交渉（2012年10月中旬）

開催日が近づき、これまでの渉外企業班の交渉方法と成果の見直しを行った。この時期の参加確定者は目標 30 人に対して、13 人であった。SNS での交渉も行き詰まっていたことや、当初予定していた電話交渉・企業訪問は一度も試みていないという反省から、改めて、電話交渉・企業訪問をメールや SNS 交渉に加えて実践することに決めた。

電話交渉にあたり、メール交渉同様、参加企業のメリットを挙げ、口頭で積極的に熱意を伝えることを試みた。電話で訪問の承諾が得られた企業には、直接企業に伺わせてもらい、改めて企画趣旨の説明を行い、参加をお願いした。訪問をさせていただいた企業では、交渉した企業すべてに参加していただくことができた。一方、電話交渉はメールとは異なり、直接反応を聞くことができ、企業側の疑問や不安にもその場で対応することができた。また、メールとは違い、返信を待っている時間はかからないため開催間近の電話交渉は効果的である

ということがわかった。そして SNS 交渉に続き、一定の成果を生み出した。

一方で、開催 2 週間前という急なお誘いのために不参加という回答もあった。もう少し早い時期からこの交渉方法を活用していれば、更に多くの参加者を集めることができたのかもしれない。

③ 参加決定者への対応

交渉活動を通して、イベントへの参加を決意してくださった方々には、原則として交渉を担当した各自が、メールで責任を持ってイベント終了後のご挨拶までの対応をすることにした。参加者確定後は事前アンケートのご協力のお願ひ、また、開催一週間前には当日の注意事項の送付とイベントのリマインドをすると共に、参加者とのコミュニケーションを図った。

3-2-b. 渉外部 NPO 班

- ① 交渉のための準備（認定 NPO リスト作成）
- ② 企業への交渉（メール・電話・イベント情報拡散等）
- ③ 参加決定者の対応（アンケート・当日の注意事項の送付）

① 交渉のための準備

- ・認定 NPO リストの作成（2012 年 7～8 月）

NPO に属する方に参加をお願いするにあたり、認定 NPO の一覧を作成し、活動分野・活動場所・規模・連絡先を把握した。

② NPO 団体への交渉

- ・電話交渉（2012 年 7～9 月）

作成した認定 NPO 一覧を参考に、各認定 NPO 団体へ電話にて参加交渉を行った。団体数は 160 団体ほどあり、2 人（9 月以降は 3 人）のメンバーが約 50 団体ずつ担当した。事前の情報もなく、いきなり電話をかけたため、電話交渉で参加を決定した団体はなかった。

- ・イベント情報の拡散依頼（2012 年 9～10 月）

イベントの認知度を高めるため、ワールドカフェを行ったことのある団体やコミュニティ・地域研究に従事する方々にイベント情報の拡散を依頼した。また、ボランティアセンターのホームページ・公益社団法人のブログなどにイベント情報を掲載していただいた。以降こちらから連絡をしていない方からも問い合わせをいただいたので、効果的だったといえる。

- ・メールでの交渉（2012 年 9～11 月）

東京都・埼玉県のボランティアセンターに登録されている NPO・ボランティア団体一覧を参考に、チラシを添付したメールを送信した。メンバー4人で担当地区を分担し、約 180 団体にメールを送信した。うち 50 ほどの団体から返信があった。メールだと参加を検討する時間が十分にとれるということ、チラシ・ホームページへのリンクを併せて送ることでよりイベントのことを知ってもらえたという点で効果的な手段だった。この交渉を始めてから、20 名ほどの参加者の増加がみられ、最終的には 32 名の方々に参加いただくことができた。

③ 参加決定者への対応（2012 年 9 月～11 月）

参加確定後は事前アンケートへの依頼書、開催一週間前には当日の注意事項を送付した。

3-2-c. 広報

- ① メディア交渉（公共機関への取材依頼、学内宣伝）
- ② 学生参加交渉
- ③ 協賛グッズ作成

① メディア交渉（2012 年 7～10 月）

- ・公共機関への取材依頼

当初は、前年度までに工藤ゼミのプロジェクトを取り上げてくださった報道関係者の方々にメールでアポイントを取ることを試みた。並行して、企画書を FAX した後、メールと電話を用いてテレビ局に連絡、また埼玉県政記者クラブを通して新聞社の方々にも連絡を取った。しかしながら、前年度に担当してくださった方を含め、実際に取材担当者の方と企画内容を話し合い、取材交渉をするまでには至らなかった。

その原因としては、なぜプロジェクトの宣伝をしたいのか、チーム内での意思決定が曖昧だったことと、電話での交渉時に上手くプロジェクトの趣旨を伝えきれなかったことがあげられる。最終的に当日に取材が入ることでワークショップの流れが妨げられるのではないかという懸念もあったため、公共メディアへの取材依頼は断念した。

また、当日の様子をビデオカメラに収め、Ustream にて配信するという案も挙げたが、これも上記と同様の展開が考えられたため、その案も却下となった。

- ・学内宣伝

獨協大学の学内誌である『獨協ニュース』には活動を取り上げていただくこととなった。学生記者の方々にワールドカフェに参加していただき、当日の流れを体験していただいた。記事は『獨協ニュース』2013年1月号に掲載された⁹。

② 学生参加交渉（2012年7～10月）

参加者人数の目標は30名。当初は、春学期中（7月まで）に参加交渉をする学生の連絡先をまとめ、夏季休暇に入り次第、随時連絡を取る、そして、秋学期（9月下旬）に入り次第、アポイントを取って直接的な参加交渉に入る計画であった。対象としては、学生活動に参加していたり、ボランティア活動に携わっていたりする、我々のイベントに興味を持ちそうな学生に絞った。

最初は獨協大学の学生に焦点を当て、支援、ボランティアを行う部活・サークルの代表者の連絡先をまとめ、参加交渉用のメールを送った。しかし、返信数が少なかったため、友人・知人、Twitter・Facebookを通じて、学内外問わず企画に興味を持ちそうな学生を探した。また、直接お会いして参加決定に至った方に、参加候補者を紹介していただき、参加交渉を行った。その他、インターネットで学生団体を検索し、そのホームページから参加案内の連絡を行った。

最終的な参加決定者は23名。当日の欠席により20名の学生がワールドカフェに参加した。

反省点としては、参加交渉の分担ができず、ほぼ一人で学生を集める結果になってしまったことがある。予め参加交渉に向けた連絡先のリストを作っておくべきだった。また、当日の参加者は地域活性、地域支援等、国内に焦点を当てた活動をしている方が多かった。そのため、国際的な社会貢献を目指している学生参加者の方から、多くの方が自らの活動と傾向が違う活動をなさっており、上手く会話に馴染めなかったという感想をいただいた。手当たり次第に交渉を行うのではなく、参加者が従事している活動の背景にまで意識を回すべきだった。

③ 協賛グッズ（2012年8月～12月）

今年は協賛金集めの新しい試みとして、協賛グッズ販売を行った。ゼミの担当教員をメインキャラクターとし、手作りのカレンダーとポストカードを協賛グッズとして作成。それらのグッズをゼミ生やゼミのOB・OGの皆様に向けて販売し、その収益をワールドカフェの運営費用とした。

⁹ 『獨協大学ニュース』2013年1月号 (http://www.dokkyo.ac.jp/d-news/pdf201301/2013_01.pdf)

夏季休暇終了後にグッズ作成を開始。ワールドカフェ当日までに絵柄を作成し、OB・OGの方々に向けた協賛グッズ注文の連絡も終了させる予定であった。しかし、グッズの完成には至らず、最終的に希望者への発送に至ったのは12月に入ってからである。販売時期は遅れてしまったが、結果としてワールドカフェの運営費用を賄うことの出来る十分な資金を得ることが出来た。

3-2-d. 施設運営

- | |
|------------------------------|
| ① 会場手配
② 備品の調達
③ 協賛金集め |
|------------------------------|

① 会場手配

獨協 6 棟 101 教室を開催場所として決定した。私達は、「ワールドカフェ～対話＋創造＝ちよっといい未来～」の理想的な開催場所として、以下の4点を条件とした。

- (1) 会議室や教室のような堅苦しい空間ではなく、「カフェ」のような開放的な雰囲気
の空間である。
- (2) 参加者（計約100名）が快適に対話できる広いスペースが確保されている。
- (3) 駅から近く、来場しやすい施設である。
- (4) 施設レンタル料が安価である。

実際に開催場所となった6棟101教室は、広いスペースは確保されているが、獨協大学内で比較的古い教室棟であり、また大学門から最も遠く、経路が複雑である。駅から会場までの6ヶ所に運営者が道案内看板を持ち対応した。また空間作りを工夫することで、教室の堅苦しい雰囲気を改善した。

②備品の調達

ワールドカフェは、模造紙・ペン・机・イスさえあれば、開催できる。イベントに必要な備品をリストアップし、それらを用意した。必要最低限な備品に加え、参加者にリラックスして対話してもらう為に、お菓子や温かいコーヒーや紅茶、ジュースなども用意した。

③協賛金集め

本イベントの参加費は無料だったので、私たちはイベント開催に必要な備品の費用を賄うため、草加市にある店舗やゼミOB・OGなどの方々にお願いし、協賛金集めを行った。

本イベントは、参加者やイベント趣旨が草加市に限定されたものではない為に、草加市の店舗の方々から協賛金を頂くのは非常に困難であった。そこで私たちは、自分達の企画趣旨やイベント開催への思いを分かりやすく伝えられるように紙芝居を作成した。本イベントの企画趣旨に賛同してくれた方々から協賛の協力を得る事が出来た。

その結果、最終的に総額 34,500 円の支援をいただくことができた。寄付頂いた中で店名などの掲載を希望された店・団体は、当日配るパンフレット並びに開催報告書に店舗名を載せ、感謝の意を示した。また、イベント終了後には当日の様子を記載した開催報告書を御礼の言葉とともに配布した。

3-3. ワールドカフェ当日

下図はワールドカフェ当日の行動計画表である。

ワールドカフェ～対話+創造=ちょっといい未来～(2012. 11. 10)タイムスケジュール～					
時刻	予定	受付	ウェイトレス	司会	対応係
13:15～	受付開始	受付	飲み物提供		道案内
14:00	ワールドカフェ開始				
14:00～14:30	司会による導入	遅刻者対応/ 会場見学	待機	司会導入	待機/会場見 学
14:30～14:50	第1ラウンド		飲み物提供	アナウンス/ タイムキープ	
14:50～14:55	席移動		待機		
14:55～15:15	第2ラウンド	飲み物提供			
15:15～15:30	休憩+席移動	遅刻者対応/ 懇親会準備	待機/懇親会準備	懇親会準備	
15:30～15:50	第3ラウンド		飲み物提供		
15:50～15:55	席移動		待機		
15:55～16:15	第4ラウンド		ポストイト配布		
16:15～16:35	フィードバック				
16:35～16:40	司会挨拶	アンケート配布/ポストイト回収		司会挨拶	会場待機
16:40	ワールドカフェ終了				
16:40～17:15	アンケート記入	参加者の方々へ挨拶・参加の御礼			

3-3-a. 参加者の属性

当日の参加者は合計 74 名、属性は下記のとおりである。

- (1) 年齢・・・10代 7人、20代 24人、30代 13人、40代 11人、50代 6人、60代 11人、70代 1人、80代 1人であった。
- (2) 性別(性自認)・・・男性 50人、女性 22人、未記入 2人であった。
- (3) 3.職業・・・学生 20人、NPO 職員 19人、会社員 13人、自営業 10人、その他 11

人であった。

- (4) 現住所・・・獨協大学の立地する草加市内からの参加者が 10 人、草加市を除く埼玉県内から 24 人、東京都内から 26 人、その他 8 人であった。

上記をまとめると、今回のワールドカフェの参加者の年齢層は幅広く、それぞれ多種多様なバックグラウンドを持つ方々に参加していただけたといえる。

3-3-b. ワールドカフェの構成

今回のワールドカフェでは、1 ラウンド 20 分の対話を 4 人グループで、各ラウンド、メンバーを入れ替えながら行う基本的な方法を採用した。1、2 ラウンドでは「理想の社会について」3、4 ラウンドでは「理想の社会実現のためには何ができるのか」を、それぞれ自分のバックグラウンドを踏まえて語り合ってもらい、全ラウンド終了後、全体共有によるフィードバックを行うことによって、対話の中で印象に残ったことや得たことを明確にし、持ち帰ることができるようにした。

フィードバックには青と黄色の二色のポストイットを使用し、それぞれのトピックでここに残ったことを書いてもらい（このポストイットは懇親会会場に掲示）、希望者には感想を発表してもらった。合計で 4 ラウンド行い、3 ラウンド目と 4 ラウンド目の間に 15 分の休憩をもうけた。また、ワールドカフェ終了後から懇親会までの間は渉外の担当者が、参加者の方へ参加の御礼や会話をできるように、スケジュールを組んだ。

3-3-c. ゼミ生当日の動き

ゼミ生は司会、受付、対応係、フロアスタッフに分かれ、当日のワールドカフェ運営にあたった。（対応係は受付開始 15 分前から、駅から会場までの 6 地点で看板を持ち参加者を誘導した。ワールドカフェ開始後は参加者の体調不良やその他の緊急事態に対応するため、会場外で待機した。）

3-3-d. 会場内配置

- ・ ワールドカフェ会場

参加者にリラックスした空間を提供するために、会場内に様々な工夫を凝らした。これらはリラックスしてもらうためだけでなく、参加者同士の話のきっかけになるようなものを目指して、ゼミ生で意見を出し合って決めた。

① 飲み物ブース

よりカフェ的な雰囲気を出すために、ペットボトルなどで飲み物をお渡しするのでは

なく、飲みたいものを取りに来ていただき、ゼミ生がコップに注ぐ、専用の飲み物ブースを設けた。

② オープニングムービー

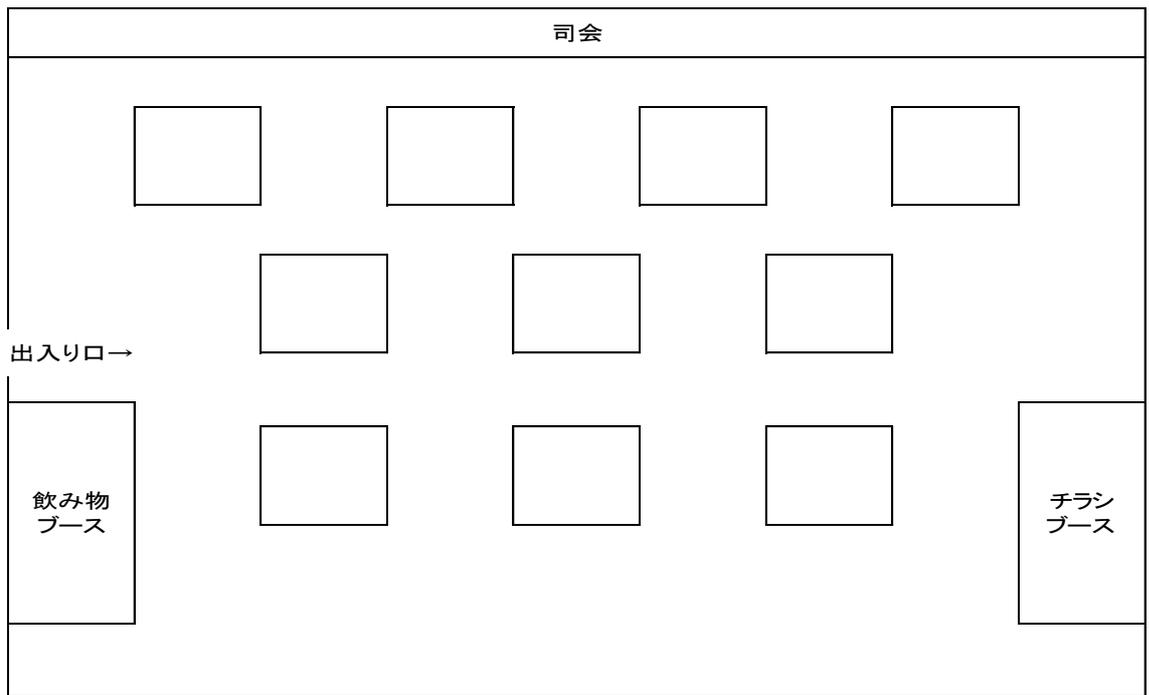
ゼミ生の家族や友達に今回のトピックである「理想の社会」について書いてもらい写真を撮ったものをスライドショーとして受付開始からワールドカフェ開始まで流した。話のきっかけ作りだけでなく、イベントへ積極的に参加していただけるよう、これからワールドカフェで話す内容を彷彿とさせるような内容にした。

③ 机

今回のワールドカフェでは参加者を旅人に例えてテーブル間移動を行なったため、テーブルを移動するごとに違った雰囲気味わえるように、各テーブルをゼミ生手作りの小物で装飾した。

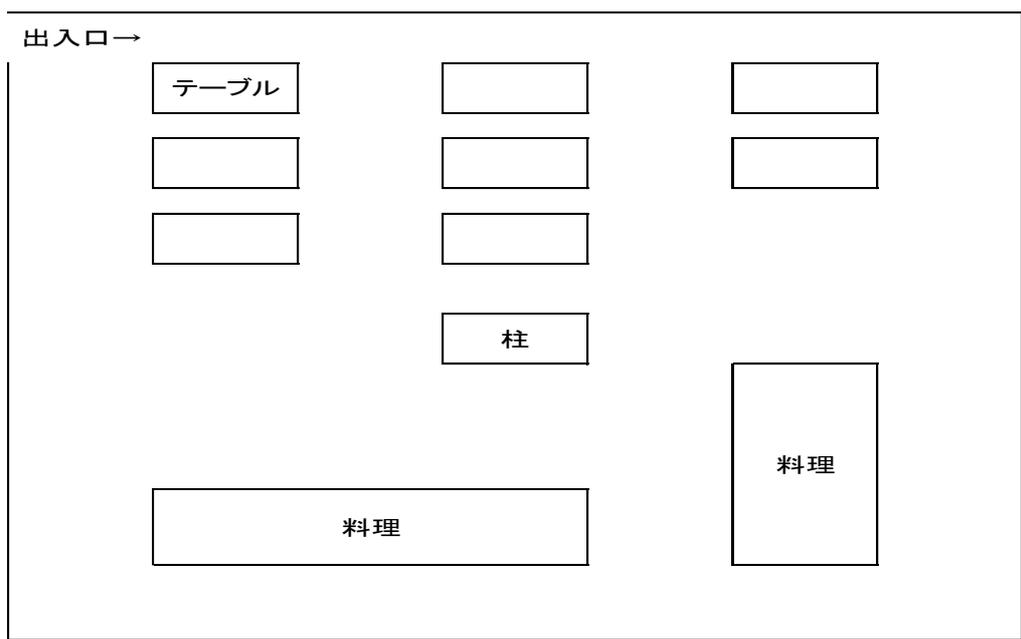
④ チラシブース・ゼミ活動報告

参加者に各団体の活動内容に関するチラシを持参していただき、良く見える位置に掲示した。また、主催者である工藤ゼミがどのような活動をしているのか、ゼミ生がどのような気持ちで運営に携わっているのかを少しでも知っていただきたいために、ゼミ生紹介・活動報告も模造紙にまとめて掲示した。下図は、ワールドカフェ会場の間取り図である。



・懇親会会場

懇親会会場は食べ物・飲み物を会場の奥、テーブルはランダムに置き、参加者が自由に動き、交流を深めることができる配置にした。また、中央の柱に持参していただいたチラシを再度掲示した。下図は、懇親会の間取り図である。



3-3-e. ワールドカフェ当日の反省

以下に、イベント後行なった反省会にて挙げた今回のワールドカフェの反省点を当日の役割ごとに列挙する。

	反省	改善
運営	開始時間に間に合わない参加者が多かった	あらかじめ参加者に送った案内に学校までの地図、6棟までの所要時間を記載すべきであった。
	当日急遽参加した人の椅子の色分けをする余裕が無かったため、ラウンドが変わる際の席替えで椅子の色の数と、それに対する人数とに不一致が生じた。	急遽参加する人が出た際の対応を事前に話し合うべきであった。色分けの際、ホストになる人の色にまで配慮しなければならなかった。
	途中参加の方を案内することで会話を止めてしまった。	途中参加者への対応の仕方を決めておくべきであった
	ワールドカフェ開始後に予想以上に参加者が増えたため、第2ラウンドから新しいテーブルを追加し、白紙の状態でのスタートになったテーブルがあった。	同上。
受付	ワールドカフェ開始直前に参加者が集中し受付が込み合った。	受付担当者を増やすべきであった。
	ワールドカフェ受付と懇親会受付を隣同士で行っていたが、ワールドカフェ受付の予想以上の混雑によりワールドカフェ受付後、そのまま会場入りする懇親会参加者が出てしまい懇親会での金銭の受理が不明確になってしまった。	受付を分けるのではなく、一から十まですべての対応をワールドカフェ受付で済まし、支払い済の人にはそれを証明する何かを渡すべきであった。
	領収書の準備を忘れていた。	
司会	開始時間の遅れのアナウンスを怠った。	
	予定通りの進行ができなかった。	
	場内では勧誘などの迷惑行為を防止するため、名刺交換を禁止した。しかし、その旨を伝えなかったため、当日は名刺	自己紹介と商業的な対話の線引きとその理由について、ワールドカフェが始まる前に言及するべきであった。

	交換をする参加者があちらこちらで見 受けられた。	
よかった点	・各担当者と連絡をとるのに LINE を使ったのはよかった。	
	・早く終わったことでアンケートや名刺の時間がとれた。	
	・喫煙所の誘導や教員食堂の誘導など機転がきいた。	
	・一人一人が担当ではない仕事を率先して行った。	

第4章 ワールドカフェの効果

北川夏実・堀口理恵

4-1. 目的

この章では、私たちのワールドカフェのタイトルである「対話+創造=ちょっといい未来」の趣旨、すなわち、よりよい社会の実現にワールドカフェがどれだけ役にたったのかについて、ワールドカフェ直後に回収された質問紙（直後アンケート：付録2参照）での回答（回答数73：回収率98%）を報告したい。今回のイベントを通して参加者の方にどのような影響を与えることができたのか、また私たちの目的を達成するためにワールドカフェという対話手法が効果的であったかのを、「参加者が得たもの」、「ワールドカフェ体験の今後の活用方法」、「より良い社会の実現という目的の達成」という3点から検証する。

4-2. ワールドカフェを通して感じたこと、得たもの

私たちは今回のワールドカフェで、その対話手法が十分に機能したのか、また参加者にどのような影響を与えることができたのかを知るために、実際に参加者が話し合いを通して感じたこと、得たものは何かを自由回答式質問にて尋ねた。ワールドカフェ参加者74名中、70名の方から回答を得た（回答率95%）。

本節では、特に多かった回答内容を具定例とともに紹介する。

4-2-a. 世代間交流

回答の中で最も多かったのは世代間交流である。「世代間」、「いろいろな年齢層」、「多世代」などのキーワードを使用した人は70名中22名（31%）であった。

- ・ 様々な年齢層の方々と話すことができたことが一番参加して良かったと思う理由です。（学生）
- ・ いろいろな世代、考え方の人々と交流できた。（NPO）
- ・ 各世代を越えて会話をする事の大切さを知ることができたから様々な人と会話することで様々な価値観・見方があると知ることができたから。（学生）
- ・ 今日のワールドカフェはいろんな年代の方が参加されていたので「年代の違い」による感覚の差があらためて実感できました。（NPO）
- ・ このワールドカフェの場、異世代のディスカッションによって何かを思い出していくこの場こそ、理想の社会のきっかけになるのだと思いました。（学生）

- ・ 様々な世代の方々のお話を伺うことができ、世代ごとに、どういった社会が理想なのか、ということをおぼせていただきました。(NPO)
- ・ 様々な年代の方が集まっていた良かったです。もっと若い人ばかりの会になるのかと想像していました。(その他)
- ・ 世代を超えた幅広い方々と実際に話しをすることが出来ました。ありがとうございました。(企業)
- ・ 普段、接することができない世代のかたがたとお話することができて良かったです。(企業)
- ・ 全く違う世代の人達の意見や考えを聞くことができました。(NPO)
- ・ 世代間交流ができたこと。社会の多種多様な現実を学ぶことができたこと。(NPO)
- ・ 多世代と話ができてよかった。視界が開けました。(NPO)

今回のワールドカフェには10代から80代までの幅広い年齢層の参加者がいたこともあり、様々な色味のある対話が繰り広げられた。この結果は普段の日常生活、対話の場面において、世代を超えた交流が減少していることの表れかもしれない。ワールドカフェという環境にあったからこそ、普段は関わる機会の少ない多世代の方々との対話ができただろうか。

4-2-b. 価値観と考えの共有

70名中18名(25%)の方からワールドカフェを通して得た新たな発見、また価値観の共有についての回答を得た。

- ・ 発見があった。同じ事柄についての表現アプローチの多様さなど社会や幸福といった頭のあのイメージが言語化できた。人の考えが解ったときのハッとした感じが楽しかった。(NPO)
- ・ 周りが考えている社会について知ることができた。考えの磨きと新しい智の取得。(企業)
- ・ いろいろな価値観を持つ人たちと意見を交わすことができたから(NPO)
- ・ さまざまな価値観違う人や世代別価値観の違う人などと話せることができた事に楽しさを感じました。(NPO)
- ・ 沢山の方と話げできた。沢山の価値観に触れることができた。(NPO)
- ・ 多様な価値観に触れることができた。(これが全てではないと知りつつ。) 様々なことを考えるきっかけになった。(学生)
- ・ 普段接する機会のない人たちとの対話、それによる新しい発見ができた。(学生)
- ・ 理想の社会というものが、ひとりひとり違う中、共通の部分を見つけることができ、様々な視点に気づくことができました。(学生)

- ・ 若い学生さんたちの今の価値観がわかる。(企業)
- ・ 幅広い人たちに出会い、意見交換ができたこと(NPO)
- ・ 多様なバックグラウンドをもつ方々、普段出会わないような方々と直接話をする事ができ、自分に足りないこと大人の方々が考える社会などたくさんものを学ぶことができたから。(学生)

以上の回答に見られるように、考えの変化や気づき、価値観の共有、様々な視点について述べたコメントが多い。ワールドカフェの特徴のひとつもある「他花受粉」の作用によって、多くの人との意見交換ができたと見られる。また、今回は「より良い社会を創造すること」に関心の高い人々が集まったが、その中においても、さらに様々な考えがある事を、この結果は物語っている。

4-2-c. 内的変化・気づき

70名中8名(11%)が参加者の内的変化、つまり自己を再認識・変化させる気づきや考えの変化に言及した。

- ・ 様々な世代の様々な考えを持つ方と意見を交換し合う機会をもてて、自分の考えがさらに磨かれました。楽しかったです。(学生)
- ・ 普段自分が考えもしなかった“理想の社会”について、幅広い年代の方と話すことによって、自分自身の気持ちや意見を大切にしたいという気持ちが芽生えた。“考え続ける”ことの大切さ、それを共有することのすばらしさを知りました。(学生)
- ・ 様々な考え方の人に自分を話すことで自分を見つめ直した。(NPO)
- ・ 自分が自分であることを高く目指す大切さを改めて思った。(NPO)
- ・ 自分が深く考えていなかった事柄を突き詰めて考えている人の意見を聞いて自分の持つ丸方向が増えた。(学生)
- ・ 自分事ではなく、他人事として捉えている自分が実感できたから。(その他)
- ・ 様々な価値観の共有ができたし、自分の意見を整理できる機械になった。(学生)
- ・ 他分野の方々と話ができて、自分の考えが広がりました。最初は緊張しましたが、同じテーマで話をする事で気楽に話すことができました。(企業)
- ・ 多種多様な意見を聞きながら自分自身の振り返りができた。数十年振りにゼミを思い出した。(NPO)

4-2-d. その他

その他の回答は以下の通りである。

- ・ 理想の社会、その実現という抽象的な事柄について長時間考えられた。(NPO)
- ・ 社会について見直すことができた。(企業)
- ・ Workshop が無料。(企業)
- ・ NPO の生いたちやミッションがわかる(企業)
- ・ 色々お話を聞いて楽しめました。様々な活動されている方々との出会いもあり有意義でした。(NPO)
- ・ 学生の人と話せたのが良かったし、理想の社会についてテーマで話せたのがすごく良かったです。(企業)
- ・ 自身で少なからず発信しているかたがたとの1つのテーマを元に意見を交わすことができた(NPO)
- ・ 自分の意見を発言できてよかった。(学生)
- ・ 初めてこの様な方々の話し合いに参加して楽しい点や参考になる事が多かったと思いました。(NPO)
- ・ ほかの業種の方々の考えや思いを聞くことができたことだけでなく、自分の思いも主張し、声に出せたから。(企業)
- ・ 価値観の多様性を実感できた。大学生でベンチャー企業・NPO 設立などしましたが、あくまで常識と離れているので、こういう感覚は楽しいです。(企業)
- ・ 特に上の世代の方から人選を諭されたような気がした。就活セミナーにでるより(でたことはないが) よっぽど社会に出ていく勇気を頂いた気がする。(学生)
- ・ いろいろな年代の方と話げできた。特に学生さんの生の声を聞くことができ、自分が思っている以上に学生さんたちの意識が高いと感じることができた。(企業)

また、今後のワールドカフェ開催に向けた参考意見として以下の回答が得られた。

- ・ 「企業と NPO」と学生が一緒にいる中で、何か具体的な施策が考えられるのかな...?と個人的には思っていた。ただ、”抽象論”に終始してしまった感は否めず、『みんなの理想の社会』→そこから”どう”理想社会になり、そのために何ができるか...?”まで考える必要があると思った。(→せっかく色々な人がいるのに...もったいない!!!)(学生)
- ・ 新しい発見はありませんでしたが交流は大事です(NPO)
- ・ 色々な方達と知り合えてお話が聞けて嬉しかったです。異業種間交流会のような感じ・・・でしたね。(NPO)

4-3. ワールドカフェ参加者の今後の活動

ワールドカフェを通して感じたことや得たものを、今後どのように活かしていきたいかと尋ねたところ、主に4つの回答が見られた(回答者数66名、回答率89%)。

4-3-a. 共有・発信

「共有」、「発信」、「伝える」などのキーワードを使用した人が66名中15名(約22%)と最も多かった。ワールドカフェ経験の実社会への還元と言及している人がいた点は重要である。

- ・ まずは所属団体へのシェアと報告から。(NPO)
- ・ 今日来れなかった・来なかった友人に今日の話し合いを伝える。(学生)
- ・ 企業活動として社会課題の解決に取り組むことがCSRとしてだけでなく、理想の社会を実現するためという大きな目標の下に行われるように、社内でも認知させていければと思います。(企業)
- ・ 友達やまわりの学生にちょっとずつでも発信していく 対話+創造=ちょっといい未来の実践。(学生)
- ・ メッセージとして社会に発信してゆきたいです。(企業)
- ・ 他の方々にも(直接的/間接的に)伝えていく、これに尽きると思います!(学生)
- ・ より多くの人に、ここで感じたことを伝えたいと思いました。(学生)
- ・ 自分なりにまとめて、自分の意見にしたい。そして友人や交流会で共有したい。(学生)
- ・ 私たちのNPO活動の会合で報告し情報を出来る限り共有し、今後の活動に活かしていきたい。(NPO)
- ・ がんばってる若い人たちの存在を他の方に伝えたいです。(NPO)

4-3-b. ワールドカフェの活用

二番目に多かった回答はワールドカフェを今後活用していきたいという意見であった。66名中10名（約15%）から以下のような回答を得た。

- ・ 自分たちの組織でも実践していきたい。(NPO)
- ・ 家族や身近な人とのつながりに、NPO活動で出会う人たちとの交流に(活かしたい)(NPO)
- ・ 講演会や研修会の場で活かしたい。(NPO)
- ・ 対話（リラックスした）で何かをふくらますという手法を取り入れたい(NPO)
- ・ あるつきあいの長い仲間うちでも時々こういう抽象的な話題で話に理解しあいたい(NPO)
- ・ 私達がNPOを行動していることに活かしていこうと思います。(NPO)
- ・ 自分の活動の中でワールドカフェ的な交流会、勉強会ができないか思考中(NPO)
- ・ ぜひ、ワールドカフェ形式で討論の場をつくりたいと思います。(NPO)

これらの意見からは、今回のワールドカフェという手法そのものが、参加者にとって有益で有意義なものであったということが考えられる。参加者によってこの対話手法が広まることは、知識や知恵の共有・人と人との交流が促進されることを意味するものであり、より良い社会の創造に貢献し得るのではないだろうか。

4-3-c. 人との関わり・交流

ワールドカフェで様々な価値観やバックグラウンドを持った人々と話し合いをする中で、更に多くの人々との交流をしていきたいという回答を66名中9名（約14%）から得た。

- ・ 学生のすばらしさを広め、もっとかかわりをもちたいです。(NPO)
- ・ 話し合いの場に出て、新しい出会いを築いていきたい。(NPO)
- ・ もっと積極的に様々な人（世代・性別問わず）と会話・ディスカッションをしたいと思います。(学生)
- ・ つながりを作っていきたいと思いました。まずは、出会いの場づくり。(NPO)
- ・ もっと沢山の方と話したいと思ったので、活動の幅を広げていきたいと思います。(学生)
- ・ もっと交流したいし独協大の学生とも。(NPO)
- ・ コミュニケーションの重要性を大切にしてい

これらの意見には、ワールドカフェという対話手法の特徴である「人と人との繋がり」が大きく影響していると考えられる。更に今回、企業人・NPO 関係者・学生という異業種の人々が、年齢を問わず参加したことから、自分とは異なる他者との交流の重要性や積極性についての意見が出たと考えられる。

4-3-d. 自己形成

今回の気づきを、個人が生きていく上での自身の糧にしていきたいと考えた人が 66 名中 7 名（約 10%）いた。

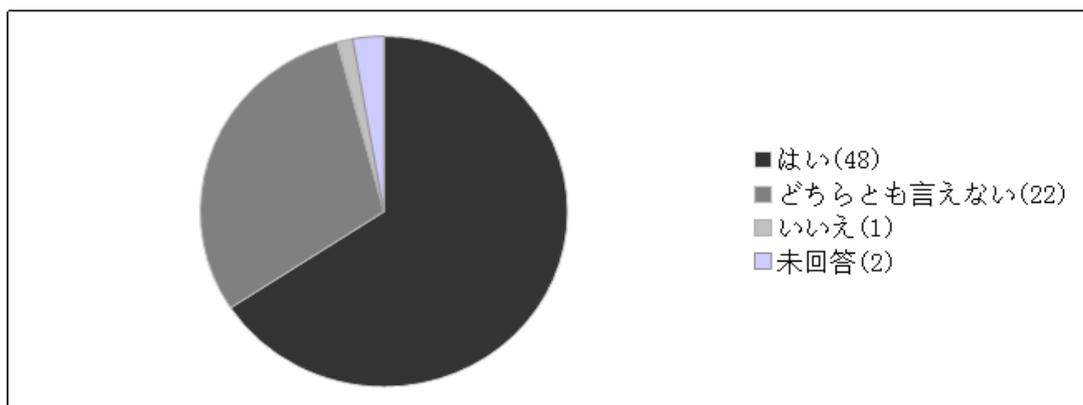
- ・ 自分の意見や考えと違った人の主張などにアンテナを張っていき、人としての肥やしにしたいと思う。(企業)
- ・ 広い視野で、社会貢献について考え、活動していきたいと思います。(NPO)
- ・ 人生を豊かにする考えに活かしたいと思います(企業)
- ・ 話をすることを楽しいとおもってもらえるような自分作りをしていきたい(NPO)

私たちのワールドカフェが、参加者自身の内省にも役に立ったことが以上のことから考えられる。「社会貢献について考えながら活動していきたい」という意見はもちろん、「話をすることを楽しいと思ってもらえるよう」という意見からも、一個人が変わり、またその姿勢が他者に変化を与えるという連鎖のスタートを期待できる。

4-4. 参加者によるワールドカフェという手法の効果に対する反応

今回のワールドカフェが「より良い社会の実現」という目的を達成するために適切な手法かどうかを尋ねた（回答者数 73 名、回答率 98%）。

まず、「本日のワールドカフェはより良い社会を作るために効果的な方法だと思いましたか」（問 3）と尋ねたところ、「はい」が 48 人、「いいえ」が 1 人、「どちらとも言えない」が 22 人、未回答が 2 人であった。



「はい」と答えた参加者から以下の理由が述べられた。

- ・ 良い社会を作るのに1番重要なのは人と人の対話なのでワールドカフェのような方法は効果的。(学生)
- ・ この輪が広がり、みんながより良い社会に向けて考え始めることができれば、世の中が変わりますね。(企業)
- ・ 社会全体の問題を自分のことと考える事が出来、他人の考えや意識のレベルを知る事ができた。(企業)
- ・ 未だ自由に語り合うという変化があまりないように思うからこういう世代を越えて話せる場を提供するのは良い方法に思う。(企業)
- ・ 正直、この範囲は社会の一部でしかありませんが、こういった取り組みが広まることによって世の中の人たちがより良い社会とは何なのかを考える場ができると思います。そうすることで一段一段より良い社会へのぼっていけるとと思いますのでぜひ今後もつづけていってください。(企業)
- ・ 話し合う、伝え合う、知り合うことがまず第一歩のより良い社会づくりと思います。(NPO)
- ・ 日本社会に自分たちの生きる社会をどう考えているのか分かち合う”場”が不足しているため(NPO)
- ・ 個人の努力で社会は変わらないが、社会は個人の集まりである。個人の変革なくして社会の変革はない。(その他)
- ・ 若い人がカジュアルにこうした場を創れていることに可能性を感じます。(NPO)
- ・ 批判をしないで話し合うことの大切さ、今の社会に一番かけていることかと改めて感じました。(NPO)

以上の回答から、「対話」の効果をおおいに感じ取ることができる。参加者自身が、世代を

越えて本音で語り合うことや普段考える機会の少ない問題について話し合うことの大切さを実感したようだ。現代社会のような人と人との関わりが希薄化した社会が、第一に必要としているものは、個人が自由に主体的に意見を出し合う対話の場なのではないだろうか。

一方、「どちらとも言えない」と答えた参加者が多かったのも注目に値する。自由記述からは以下の回答が得られた。

- ・ 考え方が偏る傾向があると思う。皆が同じ方向に向かうのは良いとは思いますが、反論があっても良かったと思う。(NPO)
- ・ 話すことは大切。でも話すだけでは不十分。(企業)
- ・ さらに深く掘り下げた交流の場（バックエンド）を設けてほしい。(企業)
- ・ ワールドカフェ自体は、あくまで参加した人たちが学んだり影響を受ける場だと思います。より良い社会を作るためには、ワールドカフェの”その後”となる何らかのアクションが必要なのではないのでしょうか。(企業)
- ・ 勝者（のみ）の理想論で終わってしまうから(学生)
- ・ 何となく、妥協の産物で収支している印象がある。(NPO)
- ・ 「こういう場には来ない人たち」の意向が軽く考えられてしまう、そういう傾向もあると思うので、その辺のバランスを意識していないとちょっと危険かなあと感じました。(NPO)
- ・ 各自が考えるきっかけになったとは思いますが、しかし「いい社会をつくる」ことが全ての人の GOAL なのか？その前に口論すべきこともあると思う。(NPO)
- ・ この話が問題、1回やってその話がなければ余り効果は・・・これを地域にどう根付かせるかいろいろな所で開かれることが大切なのではないのでしょうか(NPO)

今回のワールドカフェが「より良い社会の実現」という目的達成には不十分である2つの要因が挙げられた。一つ目に、参加者がワールドカフェで気づいたり得たものを、その後実際に行動したり動き出すことができるのかが重要であるという点である。つまり、イベント終了直後では何もわからず、参加者それぞれのその後の行動が全てを左右するのではないかという指摘である。また私たち自身も参加者のその後のアクションを期待していたにもかかわらず、今回のワールドカフェでは参加者の今後の活動や、参加者同士の繋がり作りを促すための仕掛け作りは十分ではなかつた。二つ目に、今回のワールドカフェに参加した約80名の意見は、あくまでも社会の一部の限定された声であるという点である。したがって今回のワールドカフェで意見を出し合うだけでは本当の良い社会は作れないといえよう。

4-5. まとめ

以上の調査結果から、私たちのワールドカフェがより良い社会の実現に効果的な手法であるとは必ずしも言い切れないことが分かった。しかし、今回の対話イベントが参加者に普段関わり合う機会のない他者との交流や、価値観の共有などの重要性といった様々な気づきを、ワールドカフェという対話手法を通して与えたことは事実である。そのような気づきをそれぞれが周囲に発信していこうとする動きは、少なからず社会に変化を与えると考える。したがって私たちのワールドカフェは「よりよい社会づくりの第一歩」としては効果を発揮したといえるのではないだろうか。そしてこの調査では、何よりもワールドカフェの醍醐味である「対話」に関する参加者の気づきが多く見受けられた。対話を通して語る、聞く、気付く、この単純だが大きな一歩は、より良い社会を創造する活力となり得る。ワールドカフェはそのような対話を生み出す手法であり、そのために、今後、さらに注目されるべきではないのだろうか。今後ワールドカフェが社会全体に広がり、個人が主体的に考え意見を発しようとする「より良い社会作りの第一歩」としての対話の輪が拡大していくことを期待したい。

第5章

ワールドカフェ後の「よりよい社会」に関する意識の変化

相田剛志・加藤夢子・佐々木歩・長塚勝

この章では、ワールドカフェを通して参加者の「よりよい社会」に関する意識が変化したのかについて検討する。具体的には、①事前アンケート（付録1参照）とワールドカフェ終了時のポストイット（詳細は第3章を参照）の記述内容の比較、②直後アンケート（付録2参照）、③追跡インタビュー（付録4参照）のなかから関係する部分を分析対象とし、結果を紹介する。

5-1. よりよい社会に対する意識——事前アンケートとカフェ終了時のポストイットの比較

ワールドカフェ開催前に行った事前アンケートとワールドカフェ開催直後に参加者に記入していただいたポストイット（それぞれ105枚と101枚）の内容を比較し、ワールドカフェ開催前と開催後でよりよい社会に対する意識の変化があったかどうかを分析した。

事前アンケートでは各々が考える理想の社会が具体的に書いてあり、多種多様な意見が多かった。一方、ポストイットからは抽象的でいくつかの共通するキーワードが浮かびあがってきた（表5参照）。これはワールドカフェで行った対話により、よりよい社会に対する意識が収斂されたためだと考えられる。しかし、事前アンケートとポストイットでは書ける面積が違うため、ポストイットでは紙に収まるよう記述が簡素化した可能性がある。また、ポストイットへの記入時間は運営者側が指定したので、時間内で書けるよう回答者が記入内容を短縮した可能性がある。そこで、追跡インタビューでは、個々人の意見を深く聞いてみることにした。

表5

事前アンケート・ポストイット、キーワード抽出				
分類1: 多様性が受け入れられ、個々人が認められる社会				
Keyword		該当項目数	全体回答数	割合
キーワード① 「～し合う」	事前アンケート	2	13	15%
	ポストイット	7	15	47%
キーワード② 「受け入れる」	事前アンケート	0	13	0%
	ポストイット	2	15	13%
分類2: 心にゆとりある社会				
キーワード① 「ゆとり」	事前アンケート	0	19	0%
	ポストイット	6	12	50%
キーワード② 「しあわせ」	事前アンケート	2	19	11%
	ポストイット	4	12	33%
分類3: お互いに思いやりのある社会				
キーワード 「思いやり」	事前アンケート	2	4	50%
	ポストイット	5	10	50%
分類4: 夢がもてる社会				
キーワード 「夢」	事前アンケート	4	7	57%
	ポストイット	7	10	70%
分類5: つながりのある社会				
キーワード 「つながり」	事前アンケート	1	4	25%
	ポストイット	8	9	89%
分類6: 選択肢のある社会				
キーワード 「選択」	事前アンケート	1	13	8%
	ポストイット	6	7	86%
分類7: 助け合いの社会・弱さが許される社会				
キーワード 「助け合い」	事前アンケート	4	13	31%
	ポストイット	2	11	18%
			事前アンケート合計	105
			ポストイット合計	101

5-2. 追跡インタビュー

上記の事前アンケートとポストイットの比較の内容を更に深く検討するため、追跡インタビューを行った。インタビューはワールドカフェ実施後1～1.5カ月にあたる2012年12月4日から12月30日の間に実施した。参加者75名にインタビュー依頼のメールを送り、うち承諾を得たNPO関係者13名、学生7名、企業人7名、計27名にインタビューを行った。

インタビューの質問は、①ワールドカフェによる「よりよい社会」に関する意識変化と、②ワールドカフェ参加後の行動（参加者以外の人にも影響を及ぼしたか否か）の2部で構成された。インタビュー実施後は、有効回答26名分の文字起こしと分析（記述内容のカテゴリー化）を行った。

5-2-a. 分析結果

5-2-a-1 よりよい社会に関する意識の変化

事前アンケートで答えてもらった「よりよい社会」に対する意識がワールドカフェに参加することにより変化したかを聞いたところ、回答者全員が「変化していない」と答えた。

学生・女性「ワールドカフェをやったから、私の考えが激変したという感じはあまり
しなないです。」

NPO・男性「ただ、僕の考えは参加する前とした後はブレはありません。そういう風
にちゃんと書いていますから。」

だが、変化はしていないものの他の参加者の考え方を聞くことで考え方が深まったとの回答が多く見られた。実際、回答者の多くが他の参加者が考える「よりよい社会」について記憶していた。

学生・性別無回答「やっぱりそうなのかなって思いが強くなりました。より一層深
まった、という意味では変化したと言えるかもしれません。」

企業・男性「自分自身が描いている理想的な社会に対するイメージは大きく変わら
なかつたですけど、いろんな人の意見が聞けたので、こういうのを理想としている
人もいるんだと、あまり僕が興味・関心のない分野で理想としている人もいるん
だと気づけました。」

また、変化がしないことの一因として以下のような回答も見られた。

企業・男性「僕がワールドカフェに行った目的がその考えがあっているかどうか、
周りの人から評価を得たいっていうか正しいかどうか確かめたかったんだよね。」

このように、参加目的によって「よりよい社会」に対する意識がどのように変化・再認識するかも変動すると思われる。

5-2-a-2 ワールドカフェ参加後の行動

ワールドカフェにおいて各々がよりよい社会についての考えを再認識した後、何らかの行動を起こしたかと質問をしたところ、具体的によりよい社会の実現に向けた行動を起こした人はいなかった。しかし、ワールドカフェで構築された繋がりにより、参加者同士が共に活動していることが分かった。

学生・男性「ワールドカフェで知り合った方が一人いるんですよね。…今企画している最中なのはその方が紹介してくださった方にコンタクトをとって一緒に活動をしている」

また、FacebookなどのSNSを通じてイベントへの招待、参加していることも分かった。

さらに、個人の活動とは別にワールドカフェに参加したことを知人や友人などに報告していることが分かった。しかし、報告後の周りの反応はワールドカフェという手法や学生が運営したことに着目したものばかりで、よりよい社会について考えるきっかけ作りにはならなかったようである。

5-3. 考察——「よりよい社会」に関する意識変化が起こらなかったのはなぜか

本節では、「よりよい社会」に関する意識変化が起こらなかった理由について、「参加者集団の同質性への気付き」、「『理想の社会』というテーマ設定」の2つの視点から考察したい。

5-3-a. 参加者集団の同質性への気付き

ワールドカフェの直後アンケートにて、以下のような意見が多数みられた。

学生・女性「・・・ここにいる人がすべての社会人じゃないって釘をさしてくれた女の人で、・・・確かにこういう場に来てる人だから同じことを思うのかもしれないし・・・」

企業・男性「・・・4人に一人くらいNPOの方でしたよね。・・・だからどうしても、みなさんそれぞれ最初からメッセージとか考え方を持ってらっしゃるんですよね。だからどちらかというと、ざっくばらんに奇想天外な発想をするっていうのはあんまりないかな、って気がしたんですよ。・・・最初から答えをある程度持って話すから・・・」

NPO・男性「あの日集まった人たちはみんないい人です。・・・だけどもある女性が、今日は素晴らしい会だけれども、世の中こういう人たちばかりだけだと思わないで生きていきましょうという発言をした方がいらっしゃったんですよ。そのことは本当にその通りだ

から・・・僕は昔から違うってことは美しいんだって言ってる。」

NPO・男性「理想の社会に対する考えに変化はないけども、皆が幸せだったらいいじゃんってというのは、俺にとって、すごく突き詰めた理念というか概念だから変化はない。・・・こういうところにくるのはそれなりに意識が高い人がくるわけであって。それはそうだなって。俺が知りたいのは、あえて、そういうところに来る人じゃない人の意見を聞きたいわけ。」

学生・男性「今回集まったのは、自分できっかけを作れる人だったと思うんですね。・・・」

企業・男性「最後の NPO の女性が言った言葉が印象的なんですけど、ここに来た人たちは情報つかみに来ている人たちで、ひとにぎりではない。社会の考えのかたすみでしかないっていうのが本当に印象的。」

このように、複数の参加者の中で「参加者＝トピック（理想の社会）に関心の有る人」という集団意識が芽生えたように見受けられる。「考えを持っていない人の話も聞いてみたい」という声もあったことから、「参加者（関心の有る人）と参加しない人（関心の薄い人）」という対比が生じたのではないだろうか。参加者の中には、異世代・異業種・異なるセクターの人との会話から刺激を得た、という声もあった。しかしそれと同時に、みんな理想の社会について考え・意見を持っているという参加者集団の同質性に対する違和感も述べられた。

また、大多数の参加者が各々の理想の社会に対する考えを事前にもって対話に参加したため、対話を通しての意識・考えの大きな変化は見受けられなかったといえる。インタビューの結果の中には、各々があらかじめ考えをもって参加したため考えの主張がメインになり、新しい考えに行きつくことがあまりなかった、という声もあった。これは、ワールドカフェに「ワールドカフェを成功に導くためには、参加者が自分ごととして真剣に取り組むことのできる『大切な問い』を提示する¹⁰⁾」という性質があるため、必然的にトピックに関心の有る人が参加者の大部分になり、関心のない人は主体的に対話に取り組めないため参加しないのではないだろうか。

一方、留意すべき肯定的な点もある。一つは、ワールドカフェ最後の全体共有で挙げられた「参加する人が社会の一部」という考え方である。もう一つは、ワールドカフェ実施後に参加者同士の交流が見られたり、インタビュー時に気づきや刺激が得られたりしたという声

¹⁰⁾ 香取・大川（2009）『ワールド・カフェをやろう！』日本経済新聞出版社、81頁。

が挙げられたことである。今回のワールドカフェが知識や考えの共有という一般的効果をもたらしたことは確かなようである。

5-3-b. 『理想の社会』というテーマ設定

私たちがワールドカフェ後に行なったインタビュー調査から考察を重ねるうちに一つの気付きを得た。それは、私たちは参加者の意識変化を前提にワールドカフェを実施したが、そもそも、今回私たちが提示した「より良い社会とは」というトピック自体が意識変化を促すものではなかった可能性である

事前アンケートでは、よりよい社会に対する様々なイメージが述べられた。

60代・男性「若者に希望が持てる社会」「努力が報いられる社会」

60代・女性「それぞれの個性を認め合いながら、互いにサポートし合える関係での思いやりのある社会」

30代・男性「多様で多目的な価値観や人類の文化性に対する理解のある社会」

30代・女性「違い探しではなく、お互いを尊重出来る社会」

20代・男性「人々が未来に希望を持ち、いまを存分に楽しめるような社会」

10代・女性「普通が当たり前だと認識されなくなる社会」

参加者それぞれが考える「より良い社会」への考えが個人それぞれで異なっているため、今回のワールドカフェのトピックである「より良い社会」が広義なものであった事は明らかである。

以上のインタビューや事前アンケートの結果、そして、ワールドカフェというイベントの性質から、今回のトピックでは意識変化は促せなかったという結論に至った。

私たちが意識を変化させるのは、自らが持つ考えよりも新しく出会った考えの方がより良いものであった時ではないであろうか。今回のワールドカフェの参加者は、それぞれ自身の特定の分野で日々考察を重ね、行動を起こしている人たちであり、参加者それぞれが自身の考えを持っている。また、事前にワールドカフェのテーマを参加者に知らせてしまったこと、また、既に明確な自分の主張を持った参加者が多く集まった結果、意識変化には至らなかったというのが結論である。

5-4. まとめ

私たちは事前・事後アンケートの回答の比較し、事後アンケートにより多くの共通項が見いだせたことから、参加者同士は対話を通して影響を与え合ったというワールドカフェの一般的な効果を確認した。しかし、事後インタビューではワールドカフェ前後で考えには変化がなく、周囲の反応も薄い、という回答が多かった。この背景には参加者の社会に対する意識・考えがもともと強かったことや「気づきを得る」というワールドカフェに期待される効果の曖昧さなどの要因が考えられる。

調査を通して私たちは今回のワールドカフェは参加者とその周囲の意識変化を促すことはできなかったという結論に至った。一方で、他の参加者との対話を通して意識が深まった、もしくは新たな気づきを得られたという声もあったことから、今回のワールドカフェは理想の社会について考える機会にはなったといえよう。

第6章 ワールドカフェ後の参加者間のつながり

伊藤優美・玉木早織・橋本歩美

本章では直後アンケートと事後1～1.5月後に行った追跡アンケートに基づき、今回のワールドカフェを開催する目的の一つでもあった参加者同士の「つながりをつくる」ことが達成できたかの分析をする。私たちが目標とするつながりとは、「ワールドカフェで出会った団体や個人が同じ目標をもって、その目標達成のために、活動を始められるようなつながり」である。

6-1. 調査方法

直後アンケート（付録2参照）では、ワールドカフェ参加者の中で一緒に活動したい人がいたかどうか、さらにその理由について質問した。一方、追跡アンケート（付録3参照）では、ワールドカフェで生まれたつながりが継続しているかどうかに関心を当てた。

6-2. 直後アンケートの結果

ここでは、企業人・NPO関係者・学生それぞれの回答とその傾向を紹介する。

6-2-a. 直後アンケート結果と分析

①企業人アンケート結果

問4¹¹。本日の参加者の中で、社会をよくするために一緒に活動したいと思う相手、団体はできましたか？ 回答数19名

はい：10名 いいえ：9名

問4-1。問4で“はい”と答えた方へ質問です。

4-1-1。何名の方と今後一緒に活動してみたいと思いましたか。 回答数9名

最少人数：1名 最大人数：9名 平均人数：3名

4-1-2。その方（または方々）と活動したいと思った理由は何ですか。 回答数6名

（※自由記述回答を以下のとおり分類）

考え方に感銘を受けた……4名

¹¹ アンケートの設問番号を表す。

自分ではできないことだから.....1名

特定の人ではなく、同じような問題意識を持った人と話を深めたい.....1名

4-1-3 その方（または方々）とどんな活動ができると思いますか。 回答数 6名

自分たちのつながりを深め、活動する.....3名

誰かのための活動ができる.....2名

その他.....1名

問 4-2. 問 4 で“いいえ”と答えた方へ質問です。

4-2-1 活動したいと思う相手がいなかった理由は何ですか。回答数 8名

深く知り合う時間がなかった.....3名

自分とは方向性が違った.....1名

抽象的だった、理想論が多かった.....1名

その他.....4名（「つながりを目的としていなかった」「自分が組織的に動いているわけではない」）

4-2-2 どのような方とだったら活動したいと思いますか。 回答数 5名

発信できる人、行動できる人.....2名

工藤ゼミ生.....1名

その他.....2名（事業内容を知ること、そもそも一緒に活動する気はない）

②NPO 関係者アンケート結果

問 4. 本日の参加者の中で、社会をよくするために一緒に活動したいと思う相手、団体はできましたか。 回答数 29名

はい：11人 いいえ：18人

問 4-1. 問 4 で“はい”と答えた方へ質問です。

4-1-1. 何名の方と今後一緒に活動してみたいと思いましたか。 回答数 10名

最少人数：1名 最大人数：9名 平均人数：4名

4-1-2. その方（または方々）と活動したいと思った理由は何ですか。 回答数 9名

（※自由記述回答を以下のとおり分類）

考え方に感銘を受けた.....5名
相手の心構えが良かった.....4名

4-1-3. その方（または方々）とどんな活動ができると思いますか。 回答数 8名
自分たちのための情報交換.....4名
誰かのための活動ができる.....2名
考え中.....2名

問 4-2. 問 4 で“いいえ”と答えた方へ質問です。

4-2-1.活動したいと思う相手がいなかった理由は何ですか。回答数 18名
深く知り合う時間がなかった.....11名
自分とは方向性が違った.....2名
抽象的だった.....2名
その他.....2名（「相手を知る気にならなかった」「同じような思考を持った人ばかりだった」）

4-2-2. どのような方とだったら活動したいと思いますか。 回答数 12名
自分の団体と方向性が同じ人.....4名
その他.....8名（「好きな方」「自分とは違う考えを持った方」「人との繋がりを大切に
する方」）

③学生アンケート結果

問 4. 本日の参加者の中で、社会をよくするために一緒に活動したいと思う相手、団体はできましたか。 回答数 18名

はい：8名（問 4-1 へ） いいえ：10名（問 4-2 へ）

問 4-1. 問 4 で“はい”と答えた方へ質問です。

4-1-1 何名の方と、今後一緒に活動してみたいと思われましたか。 回答数 7名
最小人数：2名 最大人数：4名 平均人数：3名

4-1-2 その方（または方々）と活動したいと思った理由は何ですか。 回答数 6名
考え方に感銘を受けた.....4名
活動の方向性が一緒だった.....1名

その他.....1名（「一人ではできないことも、協力すると大きな力が生まれるため」）

4-1-3 その方（または方々）とどんな活動が出来ると思いますか。 回答数 4名

誰かのための活動ができる（講演会、イベント開催など）3名

その他.....1名（「それぞれの活動によると思います」）

問 4-2. 問 4 で“いいえ”と答えた方へ質問です。

4-2-1 活動したいと思う相手がいなかった理由は何ですか？ 回答数 11名

活動の方向性が違った.....4名

まだ考えていない.....3名

相手の活動内容がよく分からなかった.....2名

その他.....2名（「一個人としての意見でしかないから。」「数は分らないですが、ワールドカフェの参加者の方々とお話をして、自分の将来に少しでも変化をもたらせて下さるような方々に出会えたと思います。」）

4-2-2 どのような方とだったら活動したいと思いますか？ 回答数 10名

活動の方向性が一緒の方.....3名

国際活動を行っている方.....2名

分からない.....2名

大規模な組織（企業など）1名

その他.....2名（「ボランティア活動をしている方」「工藤ゼミ」）

全体として、他の参加者から影響を受けた、相手の考え方に共感した、方向性が同じだったという結果が見られた（問 4-1-2）。その中でも、企業人は相手の活動内容に注目し、NPO関係者と学生は相手の人柄、考え方に注目する傾向がみられた。

次に、協働の具体的な活動について（問 4-1-3）、企業人は、各自の企業理念に即した活動を展開していきたいと考える傾向がみられた。より具体的な活動内容としては、セミナーのような大人数に向けた活動や交流会があげられた。

NPO関係者は現時点の情報交換、相互理解、つながりを生む機会を設けることに焦点を当てていた。交流会を行いたいとの考えは企業人と似ているが、自らの活動を発信する場を作りたいと考える傾向にあるようだ。出会った相手に、自らの活動に参加してほしいという思いがみえた。つながりが生まれた相手に、自分たちの知識やノウハウを社会貢献のために生

かしてほしいという意見も挙げられた。

学生は、企業や NPO 以外の第三者に貢献する形で活動したいと思う傾向が強かった。具体的には講演会やワークショップを開くことで、講演会に来た参加者に影響を与えたいと考えているようだ。また、その参加者は同年代の学生たちを対象にしていることが多かった。

一方、活動したいと思う相手がいなかった理由を尋ねたところ（問 4-2-1）、全体に共通して見られたのは、相手のことや活動内容を詳しく知ることができなかつたために、共に活動したいと判断するには至らなかつたという回答であつた。これはワールドカフェ内で名刺交換が禁止されていたためだと考えられる。また、協働相手を見つけることを目的にして参加しなかつたという意見も、三者に共通して見られた。

さらに細かく見ると、企業人からは、方向性が異なる、理想論が多い、という意見が挙げられた。加えて、企業の代表としてではなく、一個人としての参加者が多かつたため、団体同士のつながりを考えたとき、最終的な決定権を持っていないため、具体的な活動を考えることはできなかつたという意見もあつた。

NPO 関係者からは、話が抽象的である、具体的な事項が出てこなかつた、という意見が挙げられた。これは企業の「理想論が多い」という意見と重なる。また、「同じような思考性を持った参加者が多いため」という意見も挙げられた。NPO 自体が同じ考えを持って活動できる場であるため、違う考えをもつた人とつながりたいという思いが強いのではないだろうか。

学生からは、活動の方向性が違うという意見が主に挙げられた。また、協働相手を見つけることを目的に参加したのではないという意見が一番多かつた。まだ具体的に何かをしたいとは思わないが、将来の参考にしたいと考える参加者が多かつた。

「どのような方とだったら活動したいと思えますか」（問 4-2-2）と尋ねたところ、NPO 関係者と学生の中では、「方向性が同じ方」という意見が多かつた。今回のワールドカフェでは地域に目を向けた活動を行っている参加者が多かつたため、国際問題に関わる活動を行っている学生からは「国際的な活動をしている方と繋がりたい」という意見が挙げられた。企業人からは、「発信できる方」、「行動に移せる方」、という意見が挙げられた。方向性が同じかどうかということと、実際に活動できるか、という点を重視しているようであつた。

上記の分析結果を踏まえ、私たちは、つながりたくても連絡先がわからず、行動に移せていない参加者が多いのではないかと考えた。そこで、つながりがより生まれやすくなるように、有志で参加者名簿を作成しメールで配信した。名簿には、氏名、当日使用したニックネーム、団体名、連絡先、団体HPアドレス、団体の紹介を記載した。

6-2-b. 追跡調査アンケート結果

追跡アンケートの返答は18人と非常に少なく、分析が困難であったため、アンケート結果のみを開示する。

問 2. 私たちのワールドカフェで得られた新しい気付きやアイデアを他の方に話したことはありますか。 回答数 18名

はい：13名　　いいえ：5名

2-1 「はい」の場合は、誰にどのような話をしましたか。 回答数 11名

自分が所属する団体.....4名

同僚.....4名

友人.....5名

家族.....1名

(※重複回答あり)

問 3.ワールドカフェで初めてお会いした方と今でも連絡を取り合っていますか。

回答数 18名

はい：8名　　いいえ：10名

3-1 「はい」の場合は、何名と連絡を取り合っていますか。 回答数 8名

最少人数：1名　最大人数：5名　平均人数：3名

問 4.ワールドカフェで知り合った他の方と、現在までに何か一緒に活動をしましたか。

回答数 18名

はい：3名（問5へ）　　いいえ：14名（問6へ）　　検討中：1名（問7へ）

問 5. 問4で「はい」と答えた方へ質問です。

5-1 お相手の団体名と具体的な活動内容を教えてください。 回答数 3名

妄想作戦会議室（映画上映のノウハウ、映画制作会社、配給会社の紹介、自社物件のスタジオでの上映会の取り組みに発展している）・・・2名

東京薬科大学でのワールドカフェ開催（テーマ「興味の種、一緒に植えませんか？」

・・・1名

5-2 その活動は現在も続いていますか。(はい→5-3へ いいえ→5-4へ) 回答数 3名
はい : 3名 いいえ : 0名

5-3 問 5-2 で「はい」と答えた方に質問です。

なぜ活動が続いていると思いますか。 回答数 3名

方向性や考え方、できることが一緒

一緒にやればもっと多くの人の役に立ったり、大きなことができる

知識を持った人と一緒に活動しており、あまりリスクを背負っていないから

時々メールで連絡を取り合っているため

問 6.問 4 で「いいえ」と答えた方へ質問です。

6-1 活動を行うに至らなかった理由は何ですか。 回答数 14名

ビジネスの対象になる団体と出会わなかった

方向性が違った

ワールドカフェの中だけでは相手のことを知ることができなかった

連絡先がわからない

そのような目的で参加したわけではない、主催者側にそのような意図がみられなかった

問 7. 問 4 で「検討中」と答えた方へ質問です。

7-1 お相手の団体名と検討している活動内容を教えてください。 回答数 1名

団体名 : 妄想作戦会議室 活動内容 : 不動産業¹²

問 8.どのような分野の方と繋がりを持ちたいと思いますか。 回答数 13名

(※回答内容は多岐にわたるため、ここでは回答の傾向を紹介する。)

企業人は、「働くことに関する社会問題に取り組んでいる人」、「行政」という意見があった。

NPO 関係者は「考え方に共感できる人」、「弱者のために活動している人」が挙げられていた。

学生は「教育にかかわる人」、「地域ぐるみで活動している人」、「信念に基づいて活動している人」があげられていた。

¹² 社名掲載は、代表者より許可を得ている。

6-3. 結論

アンケート結果を見る限りでは、今回のワールドカフェでは、私たちが思い描いていたつながりは前述した「妄想作戦会議室」ただ1件しか生まれなかった。つながりが1つしか生まれなかった原因は3つ挙げられる。

1つ目として、参加者の集め方に原因があった。参加者集めの際、つながり・協働という言葉を出すとつながらなければならないという意識が生まれ、ワールドカフェへの参加者がうまく集まらないのではないかという意見が出た。そのため、参加するメリットとしては自団体や活動の宣伝ができるということを推し、つながり・協働という部分を控えて参加者を募った。その結果、自分たちの活動を発信したい参加者が多く集まってしまった可能性が考えられる。

2つ目として、主催者と参加者、参加者同士の目的の違いがあげられる。主催者側の目的としては、最初に述べたようなつながりをつくることを1つの目的にしていた。しかし、参加者の多くはそれを目的として参加しておらず、主催者側と参加者の間で意識の違いがあった。参加者間でも、実際につながりたいと思うような相手が今回のワールドカフェに参加していなかったことが、今回つながりが生まれなかった原因の1つとしてあげられる。

3つ目として、問いが抽象的だったため、うわべだけの理想論になってしまい、お互いの活動内容を持ち出すほど具体的な内容に話し合いが及ばず話が深まらなかった可能性があげられる。相手のことを知るができずに、理想論を話すに留まり、つながりを作るまでには至らなかった。これは、参加者の方からも当日指摘されたことである。

以上の原因から、改善点を2つ見つけた。1つ目はイベントの開催目的を的確に参加者へ伝えることである。参加者を集める際に、主催者側の目的を明確に伝えることによって、参加者に主催者側の目的を理解してもらう必要がある。2つ目は、継続性である。私たちが思い描くつながりをつくるには、時間がかかる。お互いに連絡を取り合い、意見を出し合い、方向性を一致させていく必要があるため、短い時間の交流では深いつながりがうまれない。そのため、実際に行動するためには、ワールドカフェの定期開催や、参加者同士の交流会を開催するなどといった継続性が必要である。

今回のワールドカフェで私たちの思い描くつながりが1つしかうまれないだったが、連絡を取り合っている人たちがいることは、実施したアンケートで分かった。今回のワールドカフェと一緒に活動できる相手を見つけ、協力者をつくることができたという意見もあった。そのため、今回のワールドカフェは、新たな活動を行うきっかけになったのではないだろうか。今回のワールドカフェは、「きっかけづくり」や「つながりをつくる」という点で一定の効果を挙げていると言える。今回生まれたきっかけを発展させる仕組み作りが今後の課題である。